

令和7年度 探究科学科2年生 RAP応用B 中間発表会実施要項

1. 主題 課題研究の研究方針と研究内容を発表し、課題研究の方向性を再確認する場とする。
2. 目的
 - ・中間経過をまとめ主体的に他者に発表することで、論理性をもった科学的思考および表現を行う力を養う。(主体性・科学的思考力・表現力)
 - ・他者と協働しながら研究成果をまとめ、研究過程を共有することで、協働して研究に取り組む態度を養う。(協働力・共有力・自己肯定感)
3. 日時 令和7年7月15日(火) 13:20～16:20 (5～7限)
(8月26日(火)のRAP応用Bの6限相当時1時間分を振替ることにより3時間で実施)
4. 会場 視聴覚教室、探究ラボ
5. 発表者 11R(41名)、12R(23名)の64名全員(15班)
6. 助言指導 島根大学副学長(先端マテリアル研究開発協創機構長) 三浦 英生 氏
島根大学生物資源科学部 教授 山本 達之 氏
島根大学数理・データサイエンス教育研究センター 助教 瀬戸 和希 氏
島根県立大学人間文化学部地域文化学科 助教 岩本 晃典 氏
7. 参加者 各班担当教員、11Rおよび12R正担任、教育開発部(勝部、中村)
8. 発表形式 Google スライドを用いた口頭発表
9. 時程

<視聴覚教室> 理数系

発表 5分(4分で予鈴) + 質疑応答 8分 + 移動 2分(調整) = 計 15分

13:20～13:25	開会式
13:25～13:40	発表1:物理①班 『より心地よい音色を作る』
13:40～13:55	発表2:物理②班 『マグヌスカの限界について』
13:55～14:10	発表3:化学①班 『薬草のもつ収斂作用の比較』
14:10～14:25	発表4:生物化学班 『葉の抗菌作用について』
14:25～14:35	休憩
14:35～14:50	発表5:数学班 『暖かさの指数からみた地球温暖化がバイオームに与える影響の検証』
14:50～15:05	発表6:情報班 『テキストマイニングを用いた分析』
15:05～15:20	発表7:生物①班 『メダカの視覚、聴覚、嗅覚の比較』
15:20～15:35	発表8:生物②班 『シオグサの有効活用』
15:35～15:50	発表9:地学班 『ミミズは生分解性プラスチックを分解することができるのだろうか』
15:50～16:00	(休憩・)講評カード記入
16:00～16:15	講評・閉会式 → 視聴覚教室片付け → 教室に戻って終礼 ※理数系班は当日の掃除は免除をお願いします。 視聴覚教室の掃除もなしをお願いします。音楽も流さないでください。

<探究ラボ> 人文社会系

発表 5分(4分で予鈴) + 質疑応答 8分 + 講評 5分 + 移動 2分(調整) = 計 20分

13:20～13:25	開会式
13:25～13:45	発表1:人文班 『「空気を読む」行動の具体的な意味とコツの解明』
13:45～14:05	発表2:ビジネス班 『持続可能な観光について』
14:05～14:25	発表3:スポーツ班 『スポーツを本質的に楽しむことはモチベーション向上に繋がるのか?』
14:25～14:35	休憩
14:35～14:55	発表4:生活班 『入浴剤と温度』
14:55～15:15	発表5:国際班 『何が日本人を戦争に走らせたのか』
15:15～15:35	発表6:教育班 『日本と韓国の英語教育がもたらす英語力の差』
15:35～15:45	(休憩・)講評カード記入
15:45～16:00	講評・閉会式
16:00～16:10	振り返り → 通常清掃

10.その他

後半の研究に活かす観点から、次の5項目の視点を中心に島大及び本校の教員による講評を行う。

課題研究に関する活動評価基準 (島根県理数科研究発表の評価基準)
I. 主体的な課題設定で、課題研究に相応しいものか。
① 課題の設定理由(内容)が明確であるか。 ② 課題研究に相応しい仮説の設定であるか。
II. 研究内容が充実し、その研究方法が適切に計画されているか。
③ 研究に創意工夫が見られ、意欲的・計画的な取り組みがなされているか。 ④ 問題解決のための実験・観察・調査の方法を創意工夫し、適切に取り組もうとしているか。 ⑤ 場面に応じて、必要な知識や情報を選択・収集し、効果的にそれを活用しようとしているか。

(今後の予定) R7年12月17日(水): RAP 応用 B 成果発表会

優秀班 R8年2月5日(木): SSH 成果発表会、10日(火): 探究フェスタ